

平成26年10月29日

平成26年度人材委員会活動報告（中間報告）

1. 会議開催状況

(1) 人材委員会

(第1回（メール会議）)

日 時：平成26年10月23日（木）～10月29日（水）

議 題：

- ・平成26年度人材委員会の体制について
- ・平成26年度の活動予定について
- ・第10回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー開催報告書について
- ・第11回国立大学図書館協会マネジメント・セミナーの企画について
- ・平成27年度海外派遣事業の実施について
- ・人事政策検討班による平成24～25年度調査報告書について
- ・秋季理事会への活動報告について

(第2回)

日 時：平成26年11月17日（月） 13:00～13:45

場 所：東北大学附属図書館1号館2階大会議室

議 題：

- ・秋季理事会への活動経過報告について
- ・平成27年度以降の海外派遣事業について
- ・第11回国立大学図書館協会マネジメント・セミナーについて

(2) 人材育成小委員会

(第1回)

日 時：平成26年10月10日（金） 12:30～15:00

場 所：東京大学総合図書館 2階 第一小会議室

議 題：

- ・平成26年度人材委員会の体制について
- ・平成25年度活動報告の再確認について
- ・平成26年度の活動について
- ・第10回マネジメント・セミナー開催報告書及び第11回企画について
- ・海外派遣事業に係る実施状況と検討課題について

2. 活動成果

(1) 第10回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー

テーマ：「大学のグローバル化」時代における大学図書館の機能強化を考える

日 時：平成26年6月20日（金） 9:30～12:30

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟小ホール

受講者数：206名（91機関） （東京都渋谷区代々木神園町3番1号）

※詳しくは、別紙開催報告書のとおり。

(2) 平成26年度海外派遣事業の実施

海外派遣者選考委員会の選考結果に基づき、短期4件（個人3、グループ1）計5名を派遣することとした。（選考結果については、第61回総会にて報告済み）

(3) 研修事業関連

今後の研修事業のあり方について、関係組織との連絡・調整を引き続き実施した。

(4) 人事政策関連

『図書館職員の人事政策課題について（提言）』（平成24年3月人材委員会）を受け、特に情報共有の必要性が高い「業務委託」及び「人事交流」について、平成24年から行ってきた事例調査の結果及び平成24年度～25年度にかけて実施したインタビューの結果に基づき、別紙のとおり、調査報告書として取りまとめるに至った。

3. 今後の検討事項

- (1) 第11回国立大学図書館協会マネジメント・セミナーについて
- (2) 平成27年度以降の海外派遣事業について
- (3) 研修事業のあり方について
- (4) 人事政策について

第10回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 開催報告書

平成 26 年 10 月 29 日
人 材 委 員 会

1. テーマ

「大学のグローバル化」時代における大学図書館の機能強化を考える

2. 日時

平成 23 年 6 月 20 日(金) 9:30～12:30

3. 場所

国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟小ホール
(東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号)<http://nyc.niye.go.jp/>

4. 受講者数

館長・副館長級	65機関	65名
部長級	39機関	39名
課長級	89機関	99名
その他	3機関	3名
合計	(重複を除く) 91機関	206名

※その他：課長補佐級受講者

5. プログラム (別紙 1 基調講演及びオープン・ディスカッション概要 参照)

	司会：米澤 誠 (人材委員会／東北大学附属図書館事務部長)
9:30～ 9:40	開会 挨拶：植木俊哉 (人材委員会委員長／東北大学附属図書館長)
9:40～10:50	基調講演 「大学のグローバル化」時代における大学図書館をめぐる変化 講師：姜 尚中 (聖学院大学学長)
10:50～11:05	休憩
11:05～12:20	オープン・ディスカッション コーディネータ：植木俊哉(人材委員会委員長／東北大学附属図書館長) コメンテータ： 姜 尚中(聖学院大学学長) 深貝保則(横浜国立大学附属図書館長)
12:20～12:30	まとめ・閉会

6. 受講者アンケート結果（別紙 2「アンケート集計結果」参照）

回答者:120名(受講者206名中) 回答率:58.3%

7. 決算

予算		支出		予算との差異
協会費	250,000円	マネセミ経費支出額	189,781円	60,219円

内訳及び前年(第9回)との比較

第9回支出	金額	第10回支出	金額
会場使用料	335,500	会場等使用料	147,200
控室使用料	64,600		
サービス料	40,010		
付帯設備使用料(マイク、スクリーン等)	182,500		
消費税	31,130		
会場費計	653,740	会場費計	147,200
講師旅費	68,205	講師旅費	2,260
講師謝金	36,000	講師謝金	36,000
講師費計	104,205	講師費計	38,260
講師及び受講者用飲料	0	講師及び受講者用飲料	0
配付資料印刷費	0	配付資料印刷費	4,321
その他計	0	その他計	4,321
合計	757,945	合計	189,781

8. 運営スタッフ

人材委員会	東北大学附属図書館 事務部長	米澤 誠
	大阪大学附属図書館 事務部長	井上 修
	北海道大学附属図書館 管理課長	江川 和子
	お茶の水女子大学附属図書館 図書・情報課長	森 いづみ
	筑波大学附属図書館 情報サービス課長	細川 聖二
	国立情報学研究所学術基盤推進部図書館連携・協力室長	小陳 左和子
	京都大学附属図書館 情報管理課長	島 文子
	香川大学図書館 情報図書グループリーダー	北條 充敏
	九州大学附属図書館 図書館企画課長	郷原 正好
総会当番館 (協力)	東京学芸大学附属図書館 学術情報課長	石村 恵子
	東京学芸大学附属図書館 学術情報課副課長	矢野 敏雄
	東京学芸大学附属図書館 学術情報課学術企画係長	石野 正人

以上

第 10 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー概要
「大学のグローバル化」時代における大学図書館の機能強化を考える

[平成 26 年 6 月 20 日 (金) 9:30~12:30]

於 国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟小ホール (東京都)

1. 基調講演「大学のグローバル化」時代における大学図書館をめぐる変化」

姜 尚中 (聖学院大学学長)

明治以降、20 世紀までの日本の大学は、開化 (欧化、国際化) に対応した人材を養成し、国家に供給する役割を果たしてきた。大学図書館は、知の武器庫として限られた人材へ知のストックを提供する「閉鎖的アウトルキー (自給自足経済)」であった。

それに対して、21 世紀型大学に求められているのは、グローバル化即ち「知の市場化」にどう向き合うかという課題である。今日、市場経済が国家・中央・地方のさまざまな機関を飲み込んでいる。法人化以降の国立大学は、国家と市場が共存するハイブリッドな状況におかれているが、中心となるのは市場の原理である。外部資金と特任教員が増大し、めまぐるしいフローがよしとされ、選択と集中が至上命題となった。

一方、社会には、ソーシャル・キャピタル (社会資本) を重視する NPO、NGO などの市場化に対抗する動きも生まれている。大学の知的ストックも社会資本のひとつとして、開放・共有化を進めることが望まれる。大学の授業を公開する MOOC はその一例であるが、大学図書館を MOOC 化し、「開放的ネットワーク」を機能させていくには、デジタル化への対応が必要となり、なお一層の時間やコストが必要となるであろう。

最後に「グローバル化」時代においても、変わるものと変わらないものを見極めることが大切である。知をストックし、次世代へ伝えていく図書館の機能自体は変わらない。その実現のために図書館職員の果たす役割はより多機能化していくであろう。また、今後は事務職員も教員と対等な立場で大学の意思決定過程に参加すべきであり、そのことによってモチベーションも上がるはずである。

2. オープン・ディスカッション

コーディネータ: 植木 俊哉 (東北大学附属図書館長)

コメンテーター: 姜 尚中 (聖学院大学学長)

深貝 保則 (横浜国立大学附属図書館長)

はじめに、コメンテーターの深貝館長から、横浜国立大学における新しい組織づくりの取り組みについて報告が行われた。大学では、教授会・運営委員会等の政策決定主体の顔ぶれが年度ごとに入れ替わるため、「タイム・スライス」の決定に陥りがちである。一方、現場の職員は、先例主義やルーティンへの自己限定によって、新たな政策課題を回避しつつ、日常的な多忙感に襲われている。この状況を改善し、社会の多層的な変化を乗り越え

す組織を構築するために二つの試みを行った。ひとつは、課題に応じて短期的な作業チームを立ち上げ、メンバーの関心の持続・展開を図るもの、もうひとつは、図書館職員を世話役とし、職員と運営委員をメンバーとする「電子ジャーナルを考える懇談会」「アクティブ・ラーニングを工夫する懇談会」を設置する試みである。

姜学長からは、深貝館長の報告に接して、職場を取り囲む環境の変化に対し知見を持つこと、変化を時間軸で掴みなおすことの重要性について認識を深めたというコメントがあり、学生や職員のモチベーションを高める工夫の難しさについても言及があった。

続いて、コーディネータの植木館長の進行のもと、姜学長の基調講演、深貝館長の事例報告に対する質疑応答があり、大学図書館のマネジメントについて知見を深めるとともに、大学図書館の果たすべき役割を考えるうえで有意義な機会となった。

(質疑応答の概要)

○4月の学長就任後、図書館をどう変えたいと考えているか？

→①図書館のスペース不足に対応するため、ディスカッションできる場所も含めたインフラ整備とそのための予算の確保。②専門誌（ジャーナル）の確保、③図書館スタッフの人事交流。

○貴重なモラトリアムの時期に大学生に「悩む力」をつけさせるにはどうしたら良いか？

→学生達は、グローバル化の名の下に、英語力をはじめとする即効的なスキルアップを求められている。本来、学生にとって大学時代の4年間は教養を身につける貴重な時期であるのに、いまや就活のためのトレーニング場と化しつつある。自己のしっかりした土台作りのないまま卒業してしまい、かつてのように企業内で十分研鑽を積む余裕もない中、変化の激しい時代に対応していかなければならない。知的インフラという土台作りのためのモラトリアムは大いに結構であり、そのための教養課程の充実に図書館の果たす役割は重要である。

○大学図書館が大学の知をストックして地域社会に発信する際、無料公開を求められることが多いが、有料化することによって大学の財務や研究費に還元し、正しい市場原理の中で知を育むことも考えられるか？

→社会人にとって大学図書館は、卒業後も知的ストックを活用できる重要な場所と認識されていることから、例えば卒業生はフリー、学外者からは手数料を取るなどランク別のサービスの展開も可能ではないか。私大では図書館やサテライトオフィスが自由に使える有料会員を確保しているケースもある。ただし、国立大学の場合は、どこまで市場原理になじみ、どこからが相応しくないかの見極めが難しい。

○大学の図書館司書の処遇のあり方や印象に残るライブラリアンについて？

→図書館にも書店にもかつては資料に精通したコンシェルジュ的な人材がいたものだが、いまや現場のコストダウン、非正規雇用など、図書館に限らず必要な人材をパーマネントに置けなくなってきた。

○アクティブ・ラーニングについて、教育担当理事から図書館の所管事項でないと言われかねないので自制しているが、教育インフラとして、図書館の知のストックを学生たちに活用させることも重要ではないか？

→積極的に部局・組織を超えて新しい試みをやり、その中で図書館の有効活用ができればよいのではないか。所管事項からテーマを考えるだけでは縦割りの壁を越えられない。大学は多様で民主的な意見を出し合いながら進んでいかなければならない。

→横浜国立大学では、図書館職員が能動的、機動的に動ける仕掛けを作りたいということで懇談会を立ち上げた。それぞれの組織に応じた工夫が必要である。

○タイム・スライスの語義について確認したい。過去の経緯を大切にすることか、それとも未来を見据えた判断が大切ということか？ また、人材育成に関して、職員がモチベーションを維持し続けるために、館長あるいは学長として必要なことは？

→オリジナルの語義は、過去の経緯を大切にするという意味である。しかし横浜国立大学では、電子ジャーナルパッケージの購読中止に関して、その年の委員会だけの判断で決めてしまったことがあり、将来を見据えて様々な可能性を考慮し、どの方向へ進むべきかを考える訓練が必要だと感じている。モチベーションの維持に関しては、職員への期待感を演出しながら、職位にあわせて個別に声をかけるよう意識している。

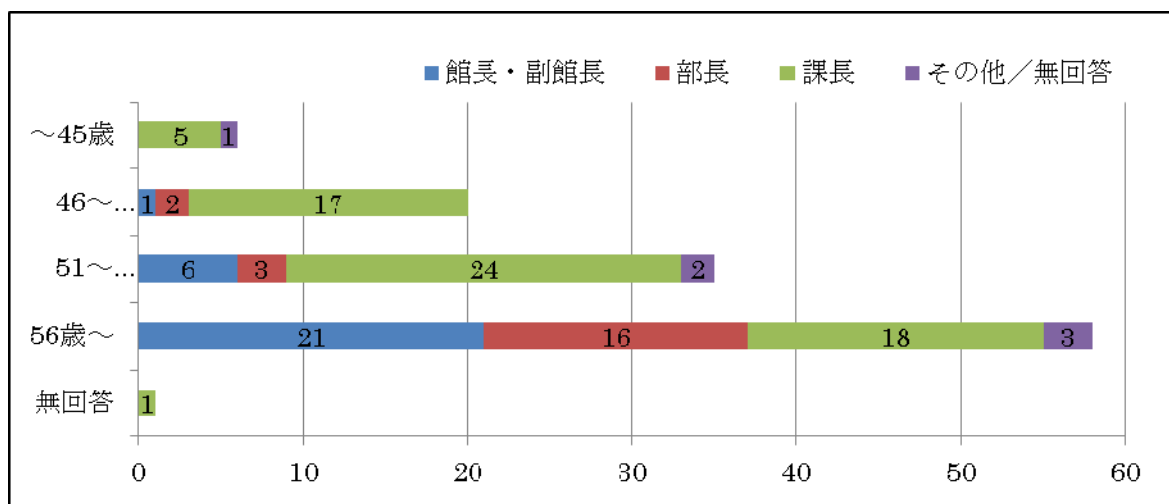
→学長として、職員全員から自分の仕事や適性について自己申告してもらい、適切なアセスメント（評価）を踏まえた人事配置を実現することを考えている。自分が評価されているという意識をモチベーションの創出につなげたい。しかし、一律の評価制度によって職場が混乱する可能性があることにも留意すべきである。

第 10 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー アンケート集計結果

[平成 26 年 6 月 20 日 (金) 9:30～12:30 於国立オリンピック記念青少年総合センター]

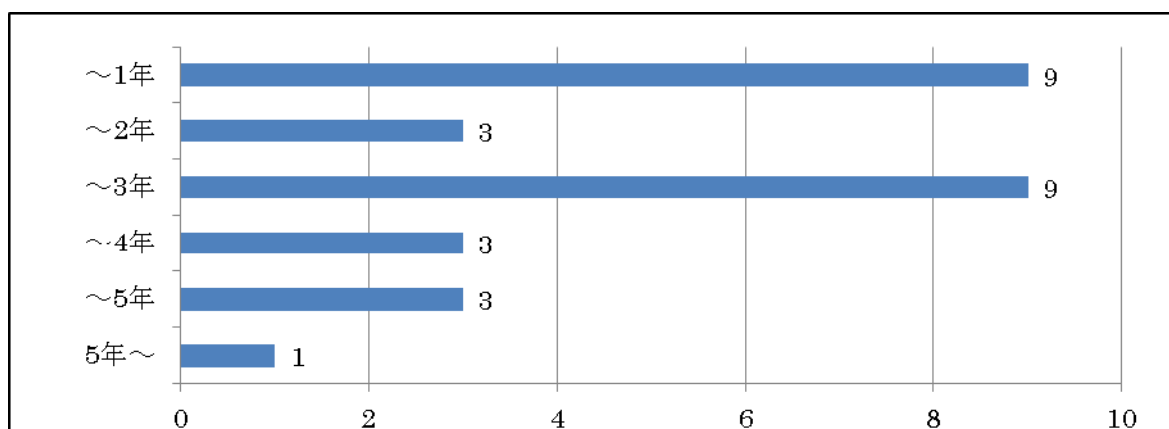
1. 回答数 120名(受講者206名中), 回答率: 58.3 %

2. 年齢



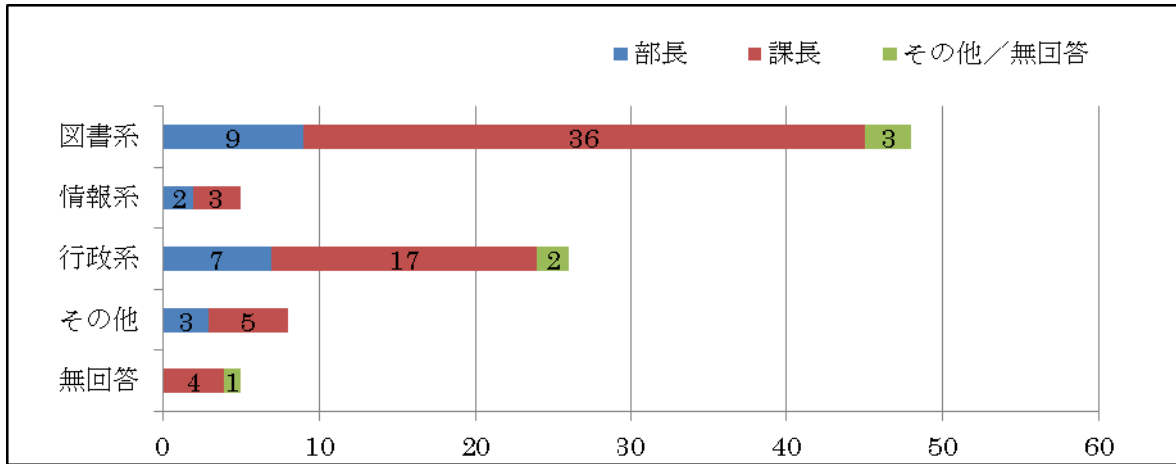
	～45歳	46～50歳	51～55歳	56歳～	無回答	合計
館長・副館長級相当職	0	1	6	21	0	28
部長級相当職	0	2	3	16	0	21
課長級相当職	5	17	24	18	1	65
その他/無回答	1	0	2	3	0	6
合計	6	20	35	58	1	120

3. 館長・副館長級相当職の経験年数



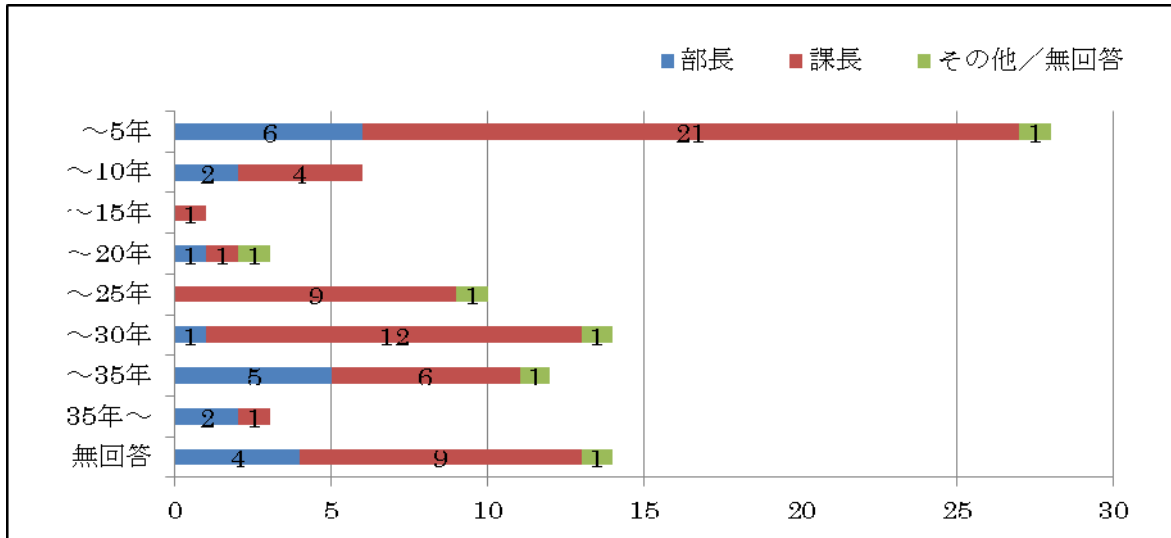
	～1年	～2年	～3年	～4年	～5年	5年～	合計
館長・副館長級相当職	9	3	9	3	3	1	28

4. 事務職の職系



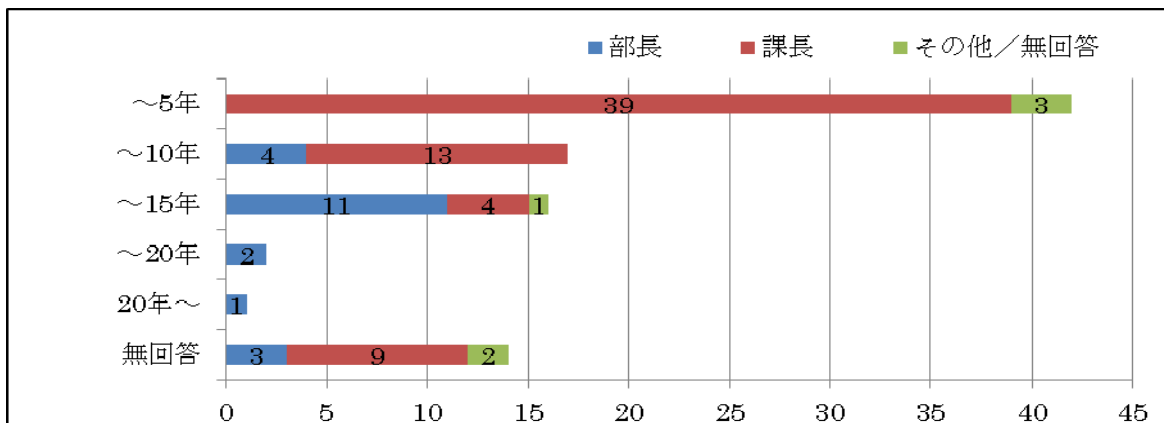
	図書系	情報系	行政系	その他	無回答	合計
部長級相当職	9	2	7	3	0	21
課長級相当職	36	3	17	5	4	65
その他/無回答	3	0	2	0	1	6
合計	48	5	26	8	5	92

5. 事務職の図書館勤務年数



	～5年	～10年	～15年	～20年	～25年	～30年	～35年	35年～	無回答	合計
部長級相当職	6	2	0	1	0	1	5	2	4	21
課長級相当職	21	4	1	1	9	12	6	1	9	64
その他/無回答	1	0	0	1	1	1	1	0	1	6
合計	28	6	1	3	10	14	12	3	14	91

6. 事務職の管理職経験年数

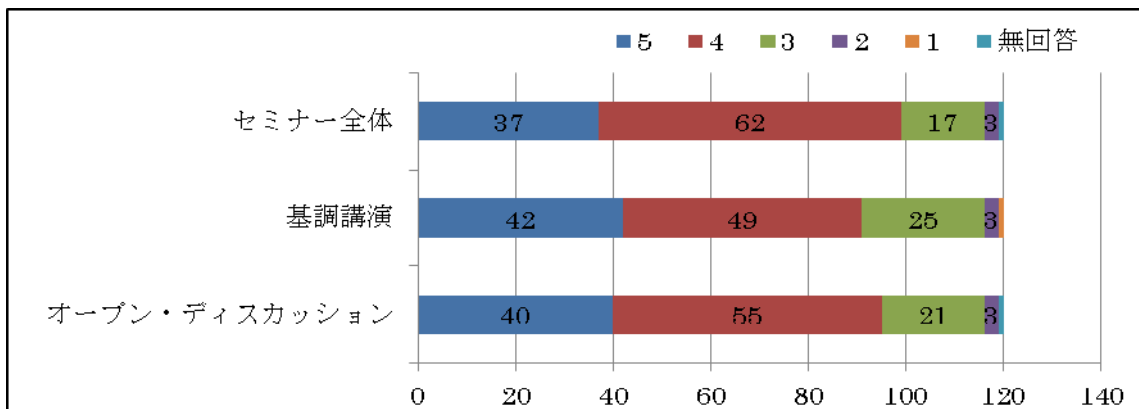


	～5年	～10年	～15年	～20年	20年～	無回答	合計
部長級相当職	0	4	11	2	1	3	21
課長級相当職	39	13	4	0	0	9	65
その他/無回答	3	0	1	0	0	2	6
合計	42	17	16	2	1	14	92

※【参考】

記名者数 全 31 名 (館長級:11/28, 部長級:5/21, 課長級:14/65, その他:1/6)

I セミナー全体および各題目が参考になったかどうか



	5:たいへん参考になった	4:参考に なった	3:ふつう	2:参考に ならなかった	1:全く参考に ならなかった	無回答
(1)全体	37	62	17	3	0	1
(2)講演	42	49	25	3	1	0
(3)オープン・ ディスカッション	40	55	21	3	0	1

【理由】

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [その他]:その他

(1) セミナー全体

《5:たいへん参考になった》

- ・ 姜尚中先生の講演ならびにオープン・ディスカッションでの話題が非常に参考になりました。[館]
- ・ 日頃から関心のあるテーマであった。[館]
- ・ 大学の特色づくりに図書館が果たす役割は大きく、今後の機能強化を進める上で参考になりました。[部]
- ・ マネジメント、人材育成について新たな視点、気づきを得ることができた。[部]
- ・ 日常で忘れていたフィロソフィーを問い直す大変良い機会になりました。[課]
- ・ 問題意識として持っていても、日常の諸条件下で、考えてもしょうがない→考えたらやっていけない→このような考え方をすることは適当ではないと消し込んでいたことを、そうではない、やはり問題なのだと思うことができたから→ただし解決方法は困難。しかしながら自分でやっている工夫が両先生の試みと重なるところがいくつかあり勇気づけられた。[課]

《4:参考になった》

- ・ 「グローバル」というテーマからそれた部分に講演・ディスカッションの時間が費やされた点は少し残念。講演で言及していただきたいポイントを何点か事前に提案させていただいてはどうか。[館]
- ・ 姜先生の講演内容は別として、グローバル時代の話ではなかった。図書館の運営の問題が main になってしまった。しかし、discussion の話の内容は良かった。[館]
- ・ 原理的な問いかけを多く含む対話へのきっかけになったと思います。多謝。[館]
- ・ 自分のテーマに近い話題だったので。[館]
- ・ 当面の課題を処理することに追われる日々ですが、全面的視野をもつことができ大変よいセミナーでした。[館]
- ・ 二人の先生からいろんな示唆に富む話を聞けて、良かったです。職場に戻り、自分で改めて職場のマネジメントについて考えていきたいと思いました。[部]
- ・ 姜先生の歴史的、世界的視点から見た大学・教育の話が参考になりました。深貝先生の「懇談会」の工夫は今後の仕事のヒントを与えてくれた。同様の事はすでに取り組んでいるが、考え方を少し変えて取り組んでみたい。[課]
- ・ 図書館に直接携わっていませんが、図書館を取り巻く状況等について勉強させていただきました。[課]

《3:ふつう》

- ・ テーマと内容があまり合致していなかった。思想・概念を扱う際は、異なる見方を持つ複数の基調講演とすべき。横浜国大の個別事例紹介には参考になるものがあつた。[館]
- ・ テーマに十分沿っていないような印象。議論が抽象的。グローバル GP と図書館の連携例の提示も必要だったのではないかと。[館]
- ・ 具体的な話題と抽象的概念的な話題がバランスされていましたが、全体的なフォーカスがあいま

이었다ように思います。[課]

《2:参考にならなかった》

- ・当然の話ばかりで、具体性がない。本学の図書館運営には役立つものがない。[館]
- ・全体として抽象的[課]

(2) 講演

《5:たいへん参考になった》

- ・姜先生の御講演は、図書館の今後の方針として参考になるものです。[館]
- ・知の継承のための図書館という変わらぬ部分を再確認できたとともに変わる環境の中で現場の今と今後への課題が具体的に学びました。[館]
- ・図書館の意義と課題について、歴史的な観点も含めて理解することができた。[館]
- ・大きな枠組みの中で、大学や図書館がおかれている位置について示唆に富む話を聞くことができた。[館]
- ・現実に大学図書館を取りまいている状況を歴史的な位置付けの中で説明いただき、大変参考になりました。不変的な役割を見失うこと無くマネジメント上の選択をしていきたいと思います。[課]
- ・大学をとりまく周辺の話も聞けて参考になった。[課]
- ・様々なキーワードを取り上げていただき勉強になった。[課]
- ・難しいテーマを具体的な事例を含めたわかりやすい言葉で講演いただいた。[課]

《4:参考になった》

- ・具体的な話と概念的な話とが共に参考になったため。[館]
- ・思想的観点からテーマが掘り下げられていたため。[部]
- ・姜先生の話は、特に図書館に特化したとは思えなかった。が、参考にはなったから。[課]

(3) オープン・ディスカッション

《5:たいへん参考になった》

- ・姜先生が質問に答えた内容がたいへん参考になった。[館]

《4:参考になった》

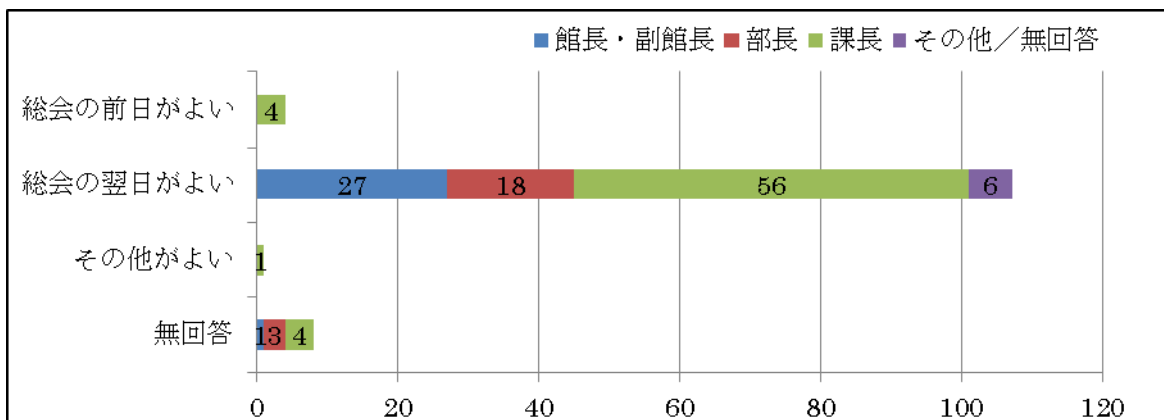
- ・テーマである「グローバル化」と図書館との関係性についての議論がややうすかった。[部]
- ・深貝先生のお話が興味深かった。最後の研究倫理・学習倫理(グローバルスタンダード)を教える根拠のお話について、もっと詳しく聞きたかったです。[課]
- ・横浜国大の取り組みについて参考になりました。[その他]

《3:ふつう》

- ・キーワードの「グローバル化」に限定されず、総花的な議論に思われた。[部]
- ・コメンテーターが一方的に話をし過ぎているのではないか。もう少し、話題のやり取りがあった方がいいと思う。[課]

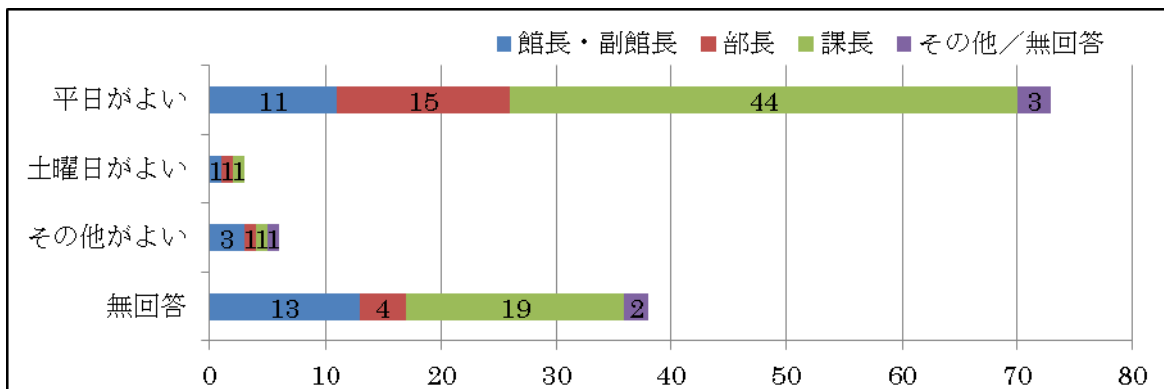
Ⅱ セミナーの開催時期について(国立大学図書館協会総会との関連)

(1)開催時期



	前日	翌日	別の日程	無回答	合計
館長・副館長級相当職	0	27	0	1	28
部長級相当職	0	18	0	3	21
課長級相当職	4	56	1	4	65
その他/無回答	0	6	0	0	6
合計	4	107	1	8	120

(2)開催する曜日



	平日	土曜日	その他	無回答	合計
館長・副館長級相当職	11	1	3	13	28
部長級相当職	15	1	1	4	21
課長級相当職	44	1	1	19	65
その他/無回答	3	0	1	2	6
合計	73	3	6	38	120

【理由】

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [その他]:その他

《開催時期:総会の前日がよい》

- ・ 自由参加のため[課]

《開催時期:総会の翌日がよい》

- ・ 今回の総会は実のある議論が多く出ていたので、それを受けるかたちでセミナーが開かれる意味はあると考えます。[館]
- ・ 現在のままで良い。[課]
- ・ 現状でよいと思います。[課]

《開催曜日:平日》

- ・ 今回の木・金曜で問題ないと思います。[館]
- ・ 金曜日。今回参加させていただき、この組み合わせが良いと感じました。[部]
- ・ 毎年同じ時期(6月の第○木・金)など、はっきり決まっているとありがたい。[課]
- ・ 6月、金曜日[課]
- ・ 午前10:30ぐらいからセミナーで、午後総会にして欲しい。[課]

《開催曜日:土曜日》

- ・ 参加しやすい[部]

《開催曜日:その他》

- ・ 平日・土曜日どちらでも[館]
- ・ 平日・土曜日どちらでも良い[館]
- ・ 不要。総会の研究セミナーで十分。[部]
- ・ 総会の前日・翌日がよい。平日・土曜日がよい。総会と連続している方が参加しやすいです。[課]
- ・ 現状と同じ金曜日がよい(遠隔地だと移動の都合により)[その他]

Ⅲ 今後のセミナーで希望するテーマ

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職

- ・ 図書以外の歴史資料等(アーカイブ)との関連について[館]
- ・ 図書館職員が教育に参画していくしくみや制度について[館]
- ・ 「マネジメント」のタイトルに忠実にするなら、特に新任館長に対して経験のある館長によるマネジメントの実務のお話もいかがでしょうか。例えば「図書館長論」など。[館]
- ・ アクティブラーニング自体がどうも図書館職員や情報関係者にはわかっていないところがあるような気がしました。一度きっちりアクティブラーニング自体を学習した方がよい気がしました。[館]

- ・次世代を担う図書館職員の人材養成は、いかに行われるべきか。[館]
- ・マネジメントされる方々にお任せいたします。[館]
- ・日本の大学図書館の”ライブラリアン”の専門職としての位置づけ直し、キャリアの上でのしかるべき処遇への改良をどのように実現するか、をテーマに。[館]
- ・ラーニング・コモンズの今後。[館]
- ・将来の大学図書館像[館]
- ・図書館で働く職員のスキルアップについて[部]
- ・大学図書館以外の図書館での取り組みを紹介するような企画も参考になると思われる。例えば公共図書館の事例を報告してもらい、それを活用することも考えられる。[部]
- ・館長が求める職員像、教員が求める職員像のようなお話を各館長から。(講演者は呼ばずに)[課]
- ・外国の図書館現状(日本との違い)[課]
- ・図書館と学内他課事業との関係構築について[課]
- ・マネジメント層に聞かせるために総会と連続開催にしているのであれば、マネジメント層に聞かせるべき内容を[課]
- ・「第3の職種」としての図書館職員[課]
- ・図書館の組織運営について[課]
- ・人材育成と人材確保 ・図書館の存在意義と広報、PR ・学生気質の変化と図書館回帰 ・変化する社会を生き抜くための人間成長(学習)と図書(館)とのかかわり方[課]
- ・人材育成と(か)外注化[課]
- ・学生・研究者(図書館ユーザー)が期待するアクティブラーニングサービスとは何か(文科省からのミッションにもなっている概念だが、利用者が本当に必要としているのかは疑問。図書館がコストと人を投入しても結果として見えなければ意味がない。)[課]
- ・大学図書館におけるグローバル化人材育成の取組[課]
- ・MOOC と図書館のかかわり[課]
- ・引き続き職員の育成と、集団の育成(職員間の関係の育成)[課]
- ・電子ジャーナルの今後[課]
- ・電子ジャーナル[課]

IV セミナーの感想, 希望, 意見等

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [その他]:その他

- ・今回は、タイムリーな話題、そして十分に説得力のある話が聴けたことに感謝しております。今後の図書館改革の方向性に自信が持てました。有難うございました。[館]
- ・今回の国大図協も含め、会場が粗末でした。長時間にわたって坐っていることに疲れました。[館]
- ・新任の図書館長や図書館職員にとって、このようなセミナーは、図書館をめぐる諸問題の全体像

を把握する上でとても有益だと思います。[館]

- コメンテータは人数がもう少し多くても良いのでは。一分野の意見に片寄らず、理系・文系両者のコメントを聞けるとなお良い。[館]
- 特になし[館]
- 大変貴重な有意義な時間でした。お世話になり感謝申し上げます。[館]
- 大変有意義なセミナーでした。ありがとうございました。[部]
- 教養教育の重要性和図書館の係り方を考えさせられました。[部]
- ゆったりした時間でよく考えることができた。[部]
- 基調講演のアブストラクトを(募集時に)つけていただけると嬉しいです。ありがとうございました。植木先生のコーディネートとコメントが分かり易く大変楽しかったです。[課]
- 大学における知とは何か、大学図書館は知にどう関わるのかにフォーカスすればもう少し密度が濃くなったかもしれません。姜先生、深貝先生のお話を聞いたことは良かったと思います。ありがとうございました。[課]
- 大変勉強になりました。スタッフの皆さんありがとうございました。[課]
- 参考になりました。ありがとうございました。[課]
- いつもタイムリーな情報が吸収でき、ありがたく思っております。[課]
- ディスカッションの時間に、講演の続きを話す人がいて、???・・・司会がもう少し、しきるべきだと感じた。残念です。[課]
- お話はごもつともだと理解できるが、現状との乖離、解決の困難さが痛ましい、悩ましい。[課]
- お疲れ様でした。ありがとうございました。[課]
- 有意義な時間をご提供いただき、ありがとうございました。[課]
- 姜尚中先生の大学と図書館の関係など日常的なことを含めたお話は共感することが多くあり、興味深かった。[課]
- 大変お世話になりました。[課]
- 仕事の中では、当面のことばかりを考えてしまいがちなので、意識を変えていきたい。[その他]

以上